

2013年（平成25年）3月発行

な か ま 第47号

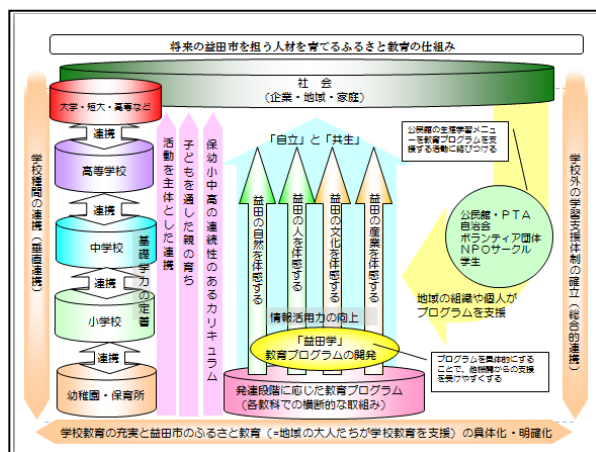


発行者 益田市保育研究会
 情報発信委員会
 事務局 〒698-0036
 益田市須子町3-1
 TEL 23-3607
 FAX 22-3554



あつという間に平成25年度も最後の月になりました。今年度は全国的に猛暑、洪水、大雪と自然の恐ろしさを痛感することの多い年でした。自然豊かな場所で保育をする私たちだからこそ様々な面から自然を見つめ理解し、その上で自然の素晴らしさを伝えなくてはいけないと感じました。子ども達に我々が伝えたいこと、伝えられるもの。これからも一人ひとりがしっかりと考えておきたいテーマの一つだと思います。

ふるさとで生きる人づくり ～ 保小の連携から ～

“すべての子ども達が保育所時代に益田の良さを体感し、大人になるまでにふるさと益田を想う子ども達を育てよう！”と、保育研究会がふるさと教育研究委員会を立ち上げてから、もうすぐ6年目を迎えようとしています。ふるさと教育研究委員会では、保育者自ら体験しながら、「益田を体感する保育プログラム」を作成することからスタートしました。そのプログラムをもとに、各園での取り組みや交流保育も積極的に行われるようになり、これまで以上に地域の資源を活用した保育を展開するようになりました。各園での保育活動の展開や定着にあわせ、保育所時代に体感したふるさと教育を土台に次の小学校へつなげていこうと24年度から、少しずつふるさと教育を視点とした保小連携活動が広がっています。横田保育園・梅賀山保育園・若葉保育園・神田保育園の4園と西益田小学校、豊川保育園と豊川小学校、雪舟保育所と吉田小学校そして、来年度に向けて、原浜保育所・遠田保育園・北仙道保育所の3園と安田小学校との連携が始まろうとしています。



その中で、25年度の西益田地区の連携活動をご紹介します。

日時	活動	内容
7月19日	高津川であそぼう	お気に入りの場所での川遊び 
8月30日	高津川で遊ぼう (増水のため中止)	1年生とペアで、遊びを選んでチャレンジ ライフジャケットを着て川流れ体験
9月20日	鮎を知ろう	2年生、横田中学校3年生と鮎のつかみ取り体験・塩焼きを食べる体験 

12月5日	小学校へ行こう	1年生とペアで、体育の授業・給食・昼休み・掃除を体験
2月6日	高津川の上流へ行こう 雪遊びをしよう	バスの中から川の上流を観察 1年生とペアで、かんじき体験・そり滑りなどの雪遊び

小学校側は、生活科の授業として実施しました。活動を行うにあたり、小学校とはその都度話し合いの場を持ち、保育所側、学校側としてのねらいや思い、子ども達の姿や動きなどを出し合い、指導案を作成し、当日の活動に向け取り組みます。そして活動後も、振り返りを行ってきました。また、自然部会としても、こうした連携活動に参加し、実際の園児や小学生の活動の姿を見たり、また保育者自身も活動を体感してきました。

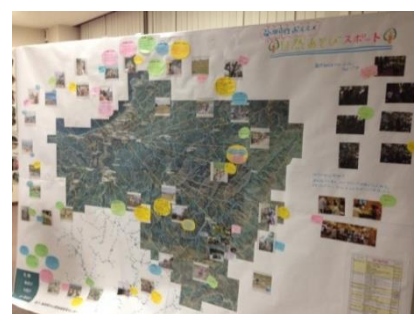
こうした連携活動を通して、子ども同士の交流はもちろん、職員同士の交流も深まります。園児は、小学生のしていることをじっと見入ったり、話を真剣なまなざしで聞き、あこがれをもち、普段学校で一番年下の1年生にとっては、園児をリードしたり、自分の知っていることを園児に言葉で一生懸命伝えようとする姿が見られ、自信をもち生き生きとした表情を見せてくれます。



また子どもに関わる保育所職員・教員にとっては、こうした場が共に子どもの育ちを考え、見守ることのできる関係をつくります。同じ活動、目的に向かって、ともに指導内容を検討したり話し合いを積み重ねていくと、学校側が何を意識して取り組もうとしているのか、どういう視点で子ども達と関わっているのかがよくわかります。また自分達が行っている保育が就学後の教育に結びついていることもわかり、改めて私達保育所の役割の大きさを感じます。保育所は子ども的人数に対しての職員配置が多く、またゆったりと流れる時間が保障されています。だからこそ保育所で過ごす時間を私たちはもっと大切に、もっと丁寧に子どもたちと関わり、保育所時代にできることをしっかりと体験させて送り出したいと思います。小学校側も直接園児の姿を見ることによって、子ども達が自ら関わり、自分達の納得するまで追い求め、気づきを得ていく過程があることを知り、保育所時代に育んだ力を小学校で継続的に生かせるようにしたいとおっしゃってられます。

“ふるさとを想う子ども達を育てたい！”と思う時、地域にある資源、その場を活用し、小・中学校と共に活動することが、学校、保育所の枠を越え、子どもの育ちを連続的に見つめる場になります。子ども達が地域の環境に生き生きと関わる姿、年齢による発見や気づきの違い、また異年齢の関わりを通して意欲的に学び、人と関わることのできるこうした場をこれからも継続し、広げていきたいと思っています。

右の写真は12月に中山間地域研究センターの檜谷さんにもお世話になり自然部会で作成した各園の“おすすめ自然スポットマップ”です。各園がすでに園のまわりにある地域資源を活用して、子ども達に感じて欲しい体験を日々の保育の中で伝えていきます。そうした活動を小学校ともつなげ、大人になるまでに子ども達の心の中にふるさとでの体験がしっかりと刻まれていくような取り組みができればと思っています。地域を想う大人達に囲まれながら、地域の中でたくさんの感動体験をした子ども達は、さらにふるさとへの想いを膨らませ、“ふるさとで生きる人”になってくれると思います。



書籍紹介コーナー



『散歩で見かける野の花・野草』

金田 一 著 日本文芸社

公園や道端などで見かける野の花・野草を春・夏・秋・冬に分けて紹介されています。これがあると四季の散歩がより一層楽しめそうです。

『共感—育ち合う保育の中で—』

佐伯 胖 著 ミネルヴァ書房

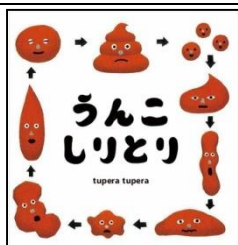
子どもと保育者と保護者が保育を通して育ち合う時こそ互いの共感が見えてくる。共感の意味とその重要性が理解できる。



『子どもに言った言葉は必ず帰ってくる』

ハイム・G・ギムット 著 菅靖彦 訳 草思社

親の聞き方話し方一つで驚くほど子どもが素直になるそうです！聞き方話し方は、保育士にとっても大事ですよ。



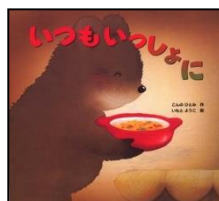
文、絵 ツペラツペラ
出版社 白泉社

なぜか子どもたちの大好きなしりとりと最強のことば「うんこ」がタッグを組んだこの絵本。

こうしのうんこ→こがねむしのうんこ→こどものうんこ・・・とずっと「こ」ではじまり「こ」で終わるのになぜか終わりなく続きます。

絵本を読み終わった後もずっと「うんこ」さがし。

新しいことばが見つかる大喜びの子どもたち。なぜか、自分も通勤中の車の中で新しい「うんこ」を探しています。



文 このひとみ
絵 いもとようこ
出版社 金の星社



文 内田麟太郎
絵 長谷川義史
出版社 童心社

色々などうぶつ親子がお父さんお母さんのおひざのうえでゆったりふれあう赤ちゃん絵本です。赤ちゃんだけでなく年長さんでも「おひざにだっこ」で読んでほしくなる一冊です。

かぞくで できるかな？

平成25年11月4日、万葉公園“太陽の広場”で保護者会連合会主催の親子対象イベント『かぞくでできるかな？』が開催されました。当日は親子約300名の参加があり、それぞれのブースで協力してさまざまな制作を行っていました。特に木やドングリを使っての“手作りリース作りブース”は人気が高く、事前に集めた材料がほとんどなくなってしまいました。子どもたちは制作した

竹ぽっくりやブンブン独楽で楽しそうに遊んでいました。自然のものを使って遊ぶことの面白さを親子で実感してもらえた一日になったのではないのでしょうか。保護者会連合会の皆さん、お手伝いいただいた職員皆さん、お疲れさまでした。



編集後記

“すべての子ども達が保育所時代に益田の良さを体感し、大人になるまでにふるさと益田を想う子ども達を育てよう！”という思いをもって始まったふるさと教育研究は研究会だけでなく関係機関と手を取り合いながら進んでいます。各園、そして保育士一人ひとりが共通のテーマとして常に意識しながら保育をしていただきたいと思います。来年度も手を取り合って益田市の子どもたちの為に尽くしましょう。

益田市保育研究会情報発信委員会

委員長 本田 行信 (まるに) 副委員長 佐々木白文 (遠 田)
委員 宇田川亜由美 (鎌 手) 委員 安岡 佐織 (ひかり)

この機関紙に対するご意見・ご感想をお寄せ下さい。あて先はこちら↓まで
益田市保育研究会情報発信委員会：メールアドレス masuho@image.ocn.ne.jp
ホームページ : URL <http://masuho-k.jp/>